

心臓財団 季 報

発 行

◆ 公益財団法人日本心臓財団 ◆

〒 163-0704 東京都新宿区西新宿 2-7-1 小田急第一生命ビル 4 階

○ Tel 03-5324-0810 ○ Fax 03-5324-0822

○ e-mail : info@jhf.or.jp ○ URL : http://www.jhf.or.jp

No.214

Mar. 10, 2014

平成26年3月10日(月)
通巻214号

平成 25 年度日本心臓財団研究奨励、入澤宏・彩記念研究奨励、 拡張型心筋症治療開発研究助成 対象者決定

わが国の主な国民死因の中で約3割を占める心臓病、脳卒中、高血圧、動脈硬化症等の循環器疾患の制圧を目指す日本心臓財団では、このたび循環器領域の研究者を対象に第39回日本心臓財団研究奨励、第4回日本心臓財団入澤宏・彩記念研究奨励および女性研究奨励、第1回拡張型心筋症治療開発研究助成（ほのかちゃん基金）を実施いたしました。

日本心臓財団研究奨励は、心臓血管病の成因、治療、予防等循環器の研究領域における40歳未満の少壮研究者を対象に200万円を10件助成するものです。

基礎研究に多大な足跡を残された故入澤宏・彩先生の遺志による日本心臓財団入澤宏・彩記念研究奨励は、日本心臓財団研究奨励応募者の中より基礎研究者を対象に100万円を3件、女性研究者を対象に100万円を1件助成するものです。

さらに今年度より新設された拡張型心筋症治療開発研究助成は、拡張型心筋症の福本穂香（ほのか）ちゃんが海外での心臓移植を行う（2007年当時は日本での小児への移植は認められていませんでした）ための募金による寄附金が多くなっています。

ほのかちゃんの渡航は実現しましたが、僧帽弁形成手術のみを受けて帰国し、現在は国内での移植を視野に入れた治療を行っています。そして、海外移植治療のために集めた募金を、当財団を含む公益団体へと寄附されました。

当財団は、こうした寄附者の意向を受け、ほのかちゃん基金を設立し、拡張型心筋症の患者さんが心臓移植を待つことなく治療できる最善の方法を開発・研究する研究者に助成することとしました。

日本心臓財団研究奨励・入澤宏・彩記念研究奨励には45件、拡張型心筋症治療開発研究助成には11件の応募があり、百村伸一自治医科大学附属さいたま医療センター総合医学第一教授とする選考委員会が1月10日に開かれ、以下に掲載する方々が選考されました。

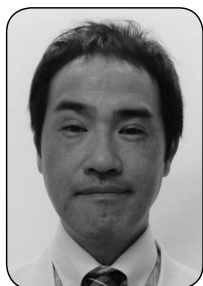
選考委員（五十音順・敬称略）

委員長	百村 伸一
	自治医科大学附属さいたま医療センター総合医学第一教授
委員	梅村 敏
	横浜市立大学大学院医学研究科病態制御内科学教授
	小西 真人
	東京医科大学細胞生理学教授
	斎藤 能彦
	奈良県立医科大学第1内科学教授
	新田 隆
	日本医科大学外科学教授
	萩原 誠久
	東京女子医科大学循環器内科学教授
	檜垣 實男
	愛媛大学大学院医学系研究科病態情報内科学教授
	平田 健一
	神戸大学大学院医学研究科循環器内科学教授
	真鍋 一郎
	東京大学大学院医学系研究科循環器内科講師
	山岸 正和
	金沢大学医薬保健研究域医学系臓器機能制御学教授

第39回日本心臓財団研究奨励 対象者

(五十音順・敬称略・奨励金額は200万円)

氏 名 所 属



泉家 康弘(39歳) 熊本大学大学院生命科学研究部循環器内科学 助教

サーチインファミリー Sirt7 による血管新生制御機構の解明

サーチインは長寿遺伝子として同定され、哺乳類では Sirt1 から Sirt7 が知られています。Sirt7 は核小体に局在するサーチインで、腫瘍の進展を促進することが知られています。腫瘍の発育には血管新生などの細胞応答が必要ですから、Sirt7 は循環器疾患においても重要な役割を担っている可能性があります。本研究では Sirt7 の血管新生における役割を遺伝子改変マウスを用いて検討し、その機序を DNA 結合タンパクの網羅的解析により明らかにします。



大山廣太郎(29歳) 早稲田大学先進理工学部物理学科 助教

局所熱パルスによるヒト心筋収縮系の制御—心疾患病態の新規診断法の開発

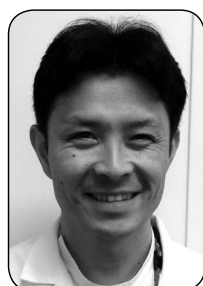
我々は赤外光レーザーを用いて、ラット心筋細胞を急速加熱すると筋収縮が生じるという現象を発見しました。生理的な筋収縮は細胞内 Ca^{2+} 濃度の上昇によって誘発されますが、加熱収縮時に Ca^{2+} 上昇は起きないため、加熱収縮は従来の電気刺激による心臓刺激とは異なる刺激法としての発展が期待できます。本研究では、①加熱収縮の分子機構を解明し、②ヒトの心筋標本を用いてヒト心臓への応用の可能性を探り、③加熱収縮を基準にした心疾患の診断技術を開発します。



金澤 英明(40歳) 慶應義塾大学医学部循環器内科 特任助教

ヒト iPS 由来心筋球を用いた新しい細胞移植法の開発

近年、重症心不全に対する新しい治療法として、iPS 細胞を用いた再生医学的アプローチによる細胞移植治療が世界的にも注目され、わが国でもその臨床応用に向けて様々な研究が急速に進められている。その中で、本研究ではヒト iPS 由来心筋球を用いた心筋再生医療の実現化に向けて、効率的かつ安全な移植法の開発を行うことによって、今後、わが国で始まるであろう iPS 心筋再生療法の臨床治験において重要な知見となることを目的としている。



北川 知郎(38歳) 広島大学病院循環器内科 助教

心外膜下脂肪組織の多面的病的意義の解明—画像診断と組織学的解析による検討—

心臓に密着する心外膜下脂肪組織は、炎症や化学物質放出を通し、冠動脈疾患や心筋疾患に直接関与する可能性が示唆されております。本研究では、非侵襲的画像診断法を用いた冠動脈・心筋疾患の病態評価と、心臓手術時に採取された心外膜下脂肪の病理組織学的所見を対比させ、新たな悪玉内臓脂肪としての心外膜下脂肪組織の病的意義に迫ります。内臓脂肪蓄積症候群における新たな予防的治療戦略の展開に貢献したいと考えております。

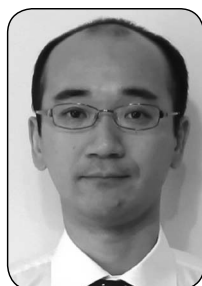


高岡 浩之(36歳) 千葉大学大学院医学研究院循環器内科学 研究生

冠動脈 CT における非狭窄性の非石灰化または混合性プラークの長期予後悪化因子の同定

過去に冠動脈 CT を施行した症例において、急性冠症候群を引き起こす不安定プラークの特徴とされる、陽性リモデリング、低 CT 値プラーク、微小石灰化を有す、非石灰化ないし混合性プラークの有無を調査する。対象として、冠動脈有意狭窄や、陳旧性心筋梗塞、心筋疾患を有す症例は除外する。さらに CT 施行後中央値約 100 カ月の長期観察を行い、これら因子のいずれか、ないしはどの組み合わせが、その後の急性冠症候群発生と関連するか検討し、CT による冠動脈プラーク評価の予後予測への有用性を検討する。

氏 名	所 属
-----	-----



武田 憲文 (40 歳) 東京大学医学部附属病院循環器内科 特任助教

成獣心筋細胞の分裂機序の解明と制御に向けた研究

従来、成人の心筋細胞は増えない、と考えられてきましたが、最近「低頻度で新陳代謝している」ことが明らかになりました。この心筋細胞の自己増殖能を制御・増幅し、安全で効果的な心不全の治療に役立てることが重要です。本課題では、申請者が経験した、他臓器の幹細胞が「増殖型」へと移行する機構を検証モデルとして、同様の因子・シグナル伝達機構が、この心筋の自己再生にも関与している可能性を探ります。



竹藤 幹人 (40 歳) 名古屋大学医学部附属病院循環器内科 病院助教

深部静脈血栓症における静脈内皮機能について

深部静脈血栓症は、下肢静脈内に血栓(血液の塊)が生じる病気です。血栓が肺などの大血管を閉塞すると、突然死を来すことがあります。深部静脈血栓症はエコノミー症候群とも呼ばれ、身近な問題として国民の関心も高まっています。

これまでの基礎研究は、心臓や動脈について多くなされてきましたが、静脈の研究は、あまりされていません。本研究では、静脈の機能を解析し、深部静脈血栓症の発症メカニズムについて研究します。



田中由美子 (39 歳) 東京医科歯科大学難治疾患研究所細胞分子医学 テニュアトラック准教授

免疫代謝システムの変動に基づく生活習慣病の分子機構の解明

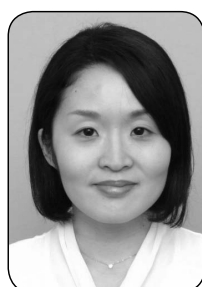
肥満を基盤とした糖尿病、高脂血症などの生活習慣病は、動脈硬化症を進める主要な要因となります。生活習慣病の進展にマクロファージなどの免疫細胞が重要な役割を担うことが最近注目されています。本研究では免疫細胞の機能は代謝と関連していることに着目し、そのメカニズムを明らかにします。研究の成果により、免疫細胞の機能を改善することによって生活習慣病の発症や進展を防ぐ予防・治療法を開発できると期待されます。



長岡 英気 (37 歳) JA 長野厚生連北信総合病院 心臓血管外科 医長

ハイパースペクトラルイメージングを用いた冠動脈バイパス術評価

冠動脈バイパス術は狭心症・心筋梗塞の標準的治療の一つである。2つの血管が外科医の手により縫い上げられ、その仕上がりは早期～遠隔期において患者の生命を左右する。しかしながら従来は術中に縫い目内部の形態評価はほとんどされていなかった。ハイパースペクトラルイメージング(HSI)はこれまで困難だった術中の非侵襲的な形態の評価を行うことを可能にする技術である。本研究は HSI による血管内の可視化技術の構築を目標としている。



針村 佳江 (34 歳) 筑波大学循環器内科 大学院生

急性左心不全を来す HFpEF 患者の予後予測における心室動脈連関と左室心筋ストレインの意義ー茨城心臓血管疾患評価研究を用いた報告ー

筑波大学循環器内科の関連病院において、心不全入院症例の急性期および慢性期の画像所見および血行動態指標と予後のデータベース化を行う。特に、左室駆出率が保持されているにも関わらず心不全を発症する病態(Heart Failure with Preserved Ejection Fraction=HFpEF)について、その病態、左室心筋障害の早期マーカー、新しい予後予測指標を、心エコースペックルトラッキング法を用いて研究する。

第 1 回日本心臓財団拡張型心筋症治療開発研究助成

第 1 回日本心臓財団拡張型心筋症治療開発研究助成対象者には、iPS 細胞を用いた創薬研究を行う東京大学教授の小室一成氏と細胞免疫治療を試みる北海道大学の筒井裕之氏が選ばれました。助成金額は各 200 万円です。

助成対象に選ばれたお二人に、研究の内容と、現在拡張型心筋症を治療している患者さんにメッセージをいただきました。



拡張型心筋症患者の iPS 細胞を用いた病態解析と創薬

小室 一成

(東京大学大学院医学系研究科
循環器内科学教授)

私たちの目指している研究は、患者さんの心筋細胞を用いて、その病態を明らかにし、治療法を開発するというものです。具体的には、患者さんから採取した血液細胞から iPS 細胞を作成し、心筋細胞に分化させます。次にその患者さんの心筋細胞を使って、正常な心筋細胞と比較して形状や機能を調べることで異常を明らかにし、その異常を治す薬を探します。

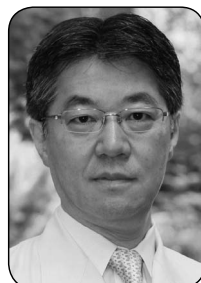
今までは生きた心臓の細胞を使った研究は不可能でしたが、iPS 細胞を使うことで患者さんの心筋細胞を試験管の中で大量に増やして使うことができるようになりました。この心筋細胞を解析するシステムができれば、現在ある何万という薬をスクリーニングして効果を調べることができます。今までなかった新しい薬を見つけることができる可能性がありますし、個々の患者さんの心筋細胞を使って調べるので、その患者さんに合った薬を見つけることもできるかもしれません。

私たちはすでに心筋症の患者さんの血液細胞から iPS 細胞を作り拍動する心筋細胞に分化させることに成功しています。今後は、身体の中の心筋細胞と同じようなレベルに成熟させることと、個々の心筋細胞の異常を発見する解析法を確立することが重要です。

3 年以内にはよい心筋細胞と解析法を確立し、薬の探索を開始したいと考えています。

● 患者さんへのメッセージ ●

薬や補助人工心臓など、心筋症の治療の進歩は目を見張るものがあります。私たちは、さらに iPS 細胞を用いて、今までできなかった患者さんの心筋細胞を用いた研究を行い、新しい治療薬を見つけたいと思います。そのためにはまだ多くの基礎研究が必要ですが、科学研究の進歩を期待していただき、今ある最善の治療を受けていただければと思います。



ナチュラルキラー T 細胞活性化による拡張型心筋症に対する新たな細胞治療の開発

筒井 裕之

(北海道大学大学院医学研究科
循環器内科学教授)

リンパ球の 1 つであるナチュラルキラー T 細胞 (NKT 細胞) は、ヒトの免疫機能を調節して炎症を抑制する役割を持っています。私たちの研究は、 α ガラクトシルセラミド (α GC) という薬剤を使って、NKT 細胞を活性化することで拡張型心筋症を改善しようとするものです。

私たちはマウスによる基礎研究で、 α GC に心不全改善効果があることを明らかにしていますが、 α GC は作用時間が短く、そのまま生体に投与すると肝障害を起こすという問題があります。そこで、患者さんの血液から採取した単核球を培養して樹状細胞を作り、その樹状細胞に α GC を加えて静脈内に投与することで心不全の治療を行います。

この樹状細胞を使った α GC による NKT 細胞活性化治療は、すでに千葉大学で癌に対する先進医療として行われています。この方法を心不全治療に応用しようとするものです。

現在、PMDA (医薬品医療機器相談機構) と相談しながら細胞治療としての品質および安全性・有効性を基礎研究で確認中であり、2016 年までにはヒトでの臨床試験の実施を目指しています。

● 患者さんへのメッセージ ●

拡張型心筋症は原因が不明で、現在の薬物治療、非薬物治療では十分ではありません。まず心臓移植の適応にならない重症患者さんを対象に、安全性・有効性を確認する臨床試験を行い、それらが確認できれば、さらに多くの患者さんで有効性を確認していきたいと思います。それができるようになれば、薬物療法、非薬物療法に次ぐ 3 番目の治療として、病気で苦しんでおられる患者さんにお届けできると思います。

ほのかちゃんのお父様からのメッセージ

今日、難病に対するメカニズムの発見や治療法の開発について発表されています。

拡張型心筋症に関しましては、小児における臓器移植の法律が改正されましたが、未だ小児移植の状況は厳しく、海外へ望みを託される方がおられます。その一方で多くの方は、治療法がはっきりされず病气と戦い悩み苦しまれておられます。

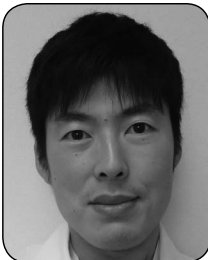
そのような中で拡張型心筋症の発症メカニズムや移植における免疫不全の心配がなく、移植に頼らない治療法の開発にこの基金をぜひとも有効に活用していただきますことをお願い申し上げます。

また、研究が患者本人やそのご家族へ希望の光となりますことを節に願っております。

(福本祐司)

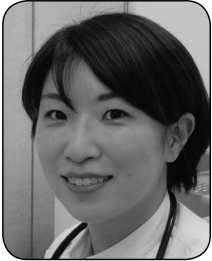
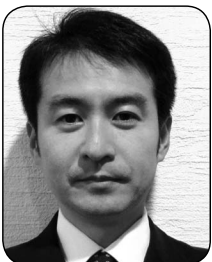
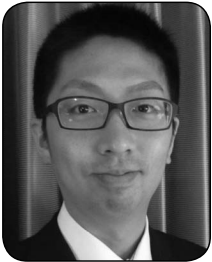
第27回日本心臓財団・バイエル薬品 海外留学助成対象者 決定

日本心臓財団では日本循環器学会の後援のもとにバイエル薬品株式会社の協力を得て、循環器領域の研究に携わる40歳未満の少壮研究者が海外の研究機関等に留学し、研究を行うための海外留学助成事業を実施しています。今回第27回本事業に43名より応募があり、下記の10名が助成対象者に決定しました。助成金額はそれぞれ300万円です。

	氏名	所属	留学先
	池崎 裕昭 (34歳)	九州大学大学院感染制御医学 大学院生	タフツ大学 (米国)
	一般住民における血清脂質分画のレベルと動脈硬化症との関連の日米国際比較		
	糖尿病などの生活習慣病の増加に伴い、心筋梗塞や脳梗塞といった動脈硬化症を原因とする疾患が日本でも増加傾向を示しており、動脈硬化症の発症・進展の予防のために血清脂質値が注目されています。留学先のタフツ大学ではアメリカのフラミンガム研究という一般住民を対象とした研究で血清脂質解析を行っており、日本の一般住民を対象とした研究から得られたデータを用いて、血清脂質の種類とその動脈硬化症に与える影響の国際比較を行う予定です。		
	江頭 徹 (34歳)	慶應義塾大学医学部循環器内科 特任助教	アイオワ大学 (米国)
	疾患 iPS 細胞を用いた細胞骨格分子異常による心筋症の病態解明と新規治療法の開発		
	私はこれまで、遺伝性の心臓病患者さんから作製した iPS 細胞を用いて、分化誘導して得られる心筋細胞を解析し、心臓病の原因の解明や新しい治療の開発に結びつく成果を目指して研究に取り組んできた。革新著しい循環器内科領域において、依然として治療成績が芳しいとは言えず、治療法の改善の余地が残されている心筋症にフォーカスし、同 iPS 細胞技術を用いた、実際の患者さんのお役に立てる研究をしたいと考えている。		
	大西 央 (36歳)	自治医科大学腎臓内科 病院助教	カリフォルニア大学 サンディエゴ校 (米国)
	SGLT を介した糖尿病性心筋症・腎症の発症・進展機序の解明		
	本研究の目的は、糖尿病治療の観点から近年注目されているナトリウム・グルコース共輸送体 (sodium-glucose co-transporter : SGLT) の、糖尿病性心筋症、および糖尿病性腎症の病態への関与について明らかにすることです。特に心筋、腎近位尿管、消化管などに発現する SGLT1 に着目し、その阻害薬やノックアウトマウスを用いて、心臓における心筋細胞肥大、線維増生、腎臓における糸球体肥大・硬化、尿細管間質線維化などを解析したいと考えております。		
	片桐 大輔 (32歳)	東京大学医学部腎臓内分泌内科 病院診療医・大学院生	スタンフォード大学 (米国)
	糖尿病性腎症の発症と病態進展に関する因子の検討		
	慢性腎臓病 (CKD) は動脈硬化性病変であり、心血管イベントの重要な危険因子として知られています。現在 CKD の最大の原因は糖尿病による腎障害ですが、治療法についてはこれまでの諸研究の蓄積にも関わらず、十分に臨床応用されているとは言えません。大学院での私の研究テーマは糖尿病治療薬の持つ、潜在的な遠隔臓器保護作用の可能性についてでした。留学先の持つ豊富な学術的背景の元で造形を深め、本邦の糖尿病性腎症研究の発展に貢献できればと思っています。		
	北村 彰浩 (37歳)	京都大学大学院医学研究科神経内科 助教	エディンバラ大学 (英国)
	肥満細胞の制御を介した血管性認知症に対する新規治療法の開発		
	血管性認知症は慢性的な脳低還流状態が誘因となり広範な白質病変を呈しますが、その機序は明らかでなく治療法の開発が急務です。肥満細胞は脳梗塞急性期に個々の因子の上流で重要な役割を果たすことが明らかになってきました。今回、申請者は、Edinburgh 大学 Karen 教授のもとで、自ら開発したラット慢性脳低還流モデルを用い、血管性認知症における肥満細胞の役割を解明し、肥満細胞の制御による新たな治療法の開発に取り組みます。		

選考委員
(五十音順・敬称略)

委員長	松岡 博昭	宇都宮中央病院院長
委員	和泉 徹	恒仁会新潟南病院顧問
	島田 和幸	新小山市民病院院長
	田林 暁一	東北厚生年金病院院長
	水野 杏一	公益財団法人三越厚生事業団常務理事

氏名	所属	留学先
 小島智亜里 (39 歳)	東京女子医科大学第四内科 助教	インペリアルカレッジ (英国)
細胞表面付着 LDL に対する新規自己抗体を用いたマクロファージによる細胞表面付着 LDL 分解機構の解明		
LDL は酸化された後、血管壁のマクロファージに取り込まれ、動脈硬化を進展させることはよく知られています。血管壁上にしっかりと付着し、マクロファージに取り込まれない LDL (細胞表面付着 LDL) も存在しますが、その分解機構はまだ十分に解明されておりません。留学先では細胞表面付着 LDL に対する自己抗体を作製しており、この抗体を用いて細胞表面付着 LDL 分解機構の解明に取り組む予定です。研究に精進し、将来の動脈硬化診療の進歩につなげたいと考えています。		
 谷本 貴志 (39 歳)	和歌山県立医科大学循環器内科 助教	マウントサイナイ医科大学 (米国)
光干渉断層法と hybrid MRI-PET を用いた急性冠症候群の発症機序解明		
不安定狭心症や急性心筋梗塞の多くは冠動脈に形成されたプラークが破綻し血栓を形成することで発症します。急激に冠動脈血流が減少、あるいは途絶すると心筋には虚血や壊死などの障害が生じます。今回の留学では、光干渉断層法などの冠動脈イメージングによる冠動脈プラークの評価と、心臓 MRI や核医学検査を用いた心筋イメージングによる心筋障害の評価を組み合わせることにより、急性冠症候群の発症機序解明を目標としています。		
 堀田 一樹 (29 歳)	東北大学病院リハビリテーション部 理学療法士	フロリダ大学 (米国)
ストレッチングが高齢者の血管内皮機能および骨格筋血流に与える影響		
有酸素運動は血管内皮機能の改善や心事故の予防に有用である一方で、重度の筋力低下や歩行障害を有する高齢患者では、有酸素運動の実施が困難となる場合があります。骨格筋を伸張するストレッチングは、ベッド上で実施可能な低強度の運動です。過去の研究で、血管内皮細胞は伸張刺激を感知し血管拡張物質である一酸化窒素を産生すると報告されています。私は留学先でストレッチングが高齢者の血管内皮機能と骨格筋血流に与える影響を研究し、帰国後、学んだ技術と知識を活かして日本の理学療法と心臓リハビリテーションの発展に貢献したいと考えています。		
 松岡 研 (34 歳)	大阪大学大学院医学系研究科 循環器内科学 大学院生	シーダースサイナイメディカルセンター (米国)
心不全ライブイメージングを応用した心不全重症度を評価する非侵襲的画像診断の開発		
近年心不全人口は増加し、正確な心不全診断と早期治療開始により、入院を防ぐことが望まれています。これまでの心不全診断の標準は、カテーテルによる心臓内圧測定と血液中の脳性ナトリウム利尿ペプチドというホルモンの測定によってなされてきましたが、それぞれ侵襲性・迅速性に問題がありました。そこで私は非侵襲的に迅速に心不全を診断できる画像診断を開発しようと動物実験による研究をしてきました。今回の留学ではそれを人に応用し、心不全の有効な診断法になりうるかを検討する予定です。		
 宮川 一也 (39 歳)	神戸大学医学部附属病院循環器内科 医員	スタンフォード大学 (米国)
肺動脈性肺高血圧症の治癒を目指した新規発症メカニズムと治療ターゲットの探索		
肺動脈性肺高血圧症は、肺の細小血管が何らかの原因により閉塞、消失することで呼吸がうまくできなくなるとともに、心臓に負担がかかることで心不全を引き起こし死に至る原因不明の難病です。最近になり様々な治療薬が開発され、以前のように死に直結する病気ではなくなってきていますが、現在のところ病気の治癒をもたらす治療法はなく、依然として生命予後は不良です。今回留学先の研究室では肺血管細胞の細胞代謝をターゲットとした研究を行い、病気の発症メカニズムを解明し新規治療方法を開発することで肺高血圧症患者さんの予後の改善に貢献したいと考えています。		

第7回 日本心臓財団 Cardiac Rhythm Management 短期海外研修助成 研修レポート

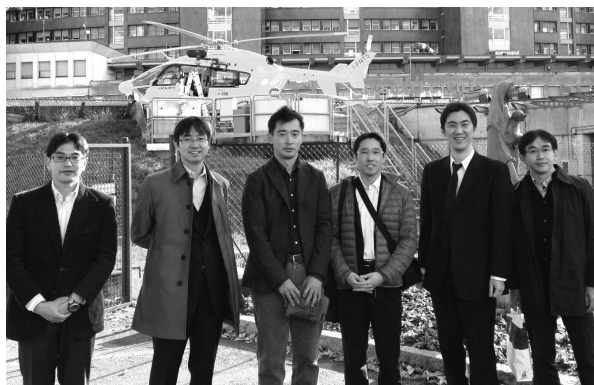
日本心臓財団では、わが国の循環器領域の臨床研究者が、欧州の基幹施設にて、電気生理学および関連分野において最先端の循環器臨床治療を経験することを目的とした短期海外研修助成を実施しています。

今回、不整脈および心不全等の植込み型デバイス療法に焦点をあてた Cardiac Rhythm Management 分野に従事する35歳から45歳までの研究者を対象に募集しましたところ、29名の応募があり、6名が助成対象者に選ばれ、2013年11月17日～24日まで8日間、イタリアのOspedale Cisanello病院（ピサ）、Spedali Civili病院（ブレシア）での研修を実施いたしました。

参加した先生方からの感想と成果に関するコメントを掲載いたします。

選考委員（五十音順・敬称略）

委員長	下村 克朗	大阪回生病院顧問
委員	相澤 義房	立川メディカルセンター研究開発部長
	大江 透	心臓病センター榊原病院研究部長
	中田八洲郎	前湘南東部クリニック院長



◆研修レポート◆



井上 耕一（42歳） 桜橋渡辺病院不整脈科科長兼内科 医長

このプログラムのように世界最高峰のデバイス手術とリード抜去術を何例も見学できる場合は、他にはありません。Bongirni先生の繊細な手術はまるでアーティストでした。Antonio先生の素早く正確に次々と手術を行っていく姿はまるでアスリートでした。今後、目指すべき頂きが明確にイメージできるようになったことは私の大きな財産です。このような機会を与えていただきました日本心臓財団関係者とピサ・ブレシアの病院関係者の方々に心よりの謝意を申し上げます。



桶谷 直也（42歳） 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科循環器・呼吸器・代謝内科学 講師

全国の名高い先生方と一緒にさせていただき、朝から晩まで不整脈談義に花を咲かせ、学会ではきくことができないような、特殊症例・合併症例などについても勉強することができました。見学については、非常に難しい症例の方もおられ、患者様にはお気の毒でしたが、ボンジョルニー先生がどこまでやってどこで諦めるのかを見せていただけました。そのため、デバイス抜去のコツも、諦め時も学ぶことができました。今後もこのような機会をより多くの先生方に得ていただくことを期待しております。



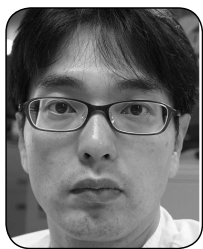
坂部 茂俊（38歳） 伊勢赤十字病院循環器内科 副部長

素晴らしい研修に参加させていただき、関係の方々に心から感謝いたします。ピサではリード抜去の優れた技術のみならず、イタリア人のチームワークの良さ、処置中決してイライラせず、コメディカルをいれてdiscussionする姿に感銘を受けました。デバイス治療の進歩に比例して抜去を要するリードが増えていくものと予想されます。個々の対応も必要ですが、施設の集約化が重要であるということを改めて認識いたしました。



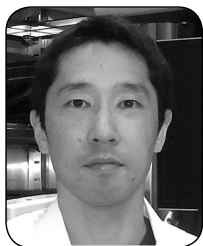
佐々木 毅（38歳） 東京医科歯科大学 循環器内科 助教

今回のプログラムに参加させて頂き、初めてのイタリアということもあり、多くの貴重な体験をすることができたこと皆様に感謝したいと思います。また、滞在中にご一緒させて頂いた先生方、ガイドして頂いた方々には大変お世話になりどうもありがとうございました。私の病院でもレーザシステムを用いたリード抜去手技を始めたこともあり、今回学ばせて頂いたことを今後の日常診療に生かしてゆきたいと考えおります。



中川 英一郎 (42 歳) 大阪市立総合医療センター循環器内科 副部長

研修プログラムは大変効率よく組まれており、二つの著名な病院において、豊富な経験と知識に裏打ちされたすばらしいリード抜去術や両心室ペースメーカーの植え込み術などの医療が実践されていることを目の当たりにし、何事にも代えがたい貴重な経験となりました。難しい手術に対して、術前から理路整然と治療戦略を立て、手術中には、どんな場面においても迅速・的確な判断を下してアプローチしていく医療はとても印象的でした。そして帰国後に、さらなる研鑽を積む必要性があることを認識させられました。



中村 紘規 (35 歳) 群馬県立心臓血管センター循環器内科 医長

このたびは経皮的リードエクストラクションを中心とした植え込みデバイス (CIED) に関連する臨床研修をさせていただきました。同手技は外科的手法と比較し、患者負担が少ないことが大きな利点ですが、熟練を要する手技であります。今回多くの症例数を有する 2 施設で手技に関連する多くの知見を得ることができ、今後の日常臨床で活かしていきたいと思っております。また、同行させていただいた先生方、スタッフの方々と情報交換する機会を持つことができ、大変有意義な研修となりました。

第8回日本心臓財団Cardiac Rhythm Management 短期海外研修助成

日本心臓財団では、平成 26 年度に行う C R M 短期海外研修助成を現在募集しています。今年もイタリアの施設にて、電気生理学および関連分野において循環器臨床治療を経験することを目的に約 1 週間の短期海外研修助成を実施します。

■対象分野

不整脈および心不全等の植え込み型デバイス療法 (CRT-D 植え込み手技、リード抜去手技見学) に焦点をあてた Cardiac Rhythm Management 分野。

■研修概要

イタリア研修 5 日間：平成 26 年 10 月 20 日 (月) ~ 10 月 24 日 (金) (6 名×1 グループ)
* 19 日 (日) 日本発、26 日 (日) 日本帰国 (予定)

■研修予定施設

イタリア：

1. Ospedale Cisanello, Pisa, Italy
(Dr. Maria-Grazia Bongiorno)
- CRM デバイス植え込み手技、リードエクストラクション見学及び関連講義 (英語)
2. Spedali Civili, Breacia, Italy
(Dr. Antonio Curnis, Dr. Luca Bontempi)
- CRM デバイス植え込み手技、リードエクストラクション見学及び関連講義 (英語)

■応募締切

平成 26 年 3 月 31 日 (当日の消印有効)
* 詳細は当財団ホームページをご参照ください。

第 78 回日本循環器学会学術集会 市民公開講座 「心臓病とともに生きる」

日 時：2014 年 3 月 23 日 (日) 14 時 50 分 ~ 17 時 10 分
会 場：東京国際フォーラム ホール C
(東京都千代田区丸ノ内 3-5-1)
主 催：第 78 回日本循環器学会学術集会、日本心臓財団、朝日新聞社
後 援：東京都、日本医師会、東京都医師会 (すべて予定)
協 賛：第一三共株式会社

* 申込みは 3 月 10 日に締め切りました。

◆◆ プログラム ◆◆

司 会：平田 恭信 (東京通信病院)
講演 1：狭心症・心筋梗塞と上手に付き合うには
山岸 正和 (金沢大学循環器内科)
講演 2：心不全と上手に付き合うには
筒井 裕之 (北海道大学循環器内科)
講演 3：生活習慣病と上手に付き合うには
久代登志男 (日本大学総合健診センター)
対 談：いつもチャレンジ精神で
~いきいきと毎日を過ごすために~
永井良三 (自治医科大学)
草野 仁 (TV キャスター)

パネルディスカッション

司会：永井良三・平田恭信
パネリスト：上記出演者

季節の野菜を食べて心臓病を予防しよう <春>

日本人の死因の第2位とされる心臓病。心筋梗塞や狭心症などの虚血性心疾患の原因は様々ですが、大きく影響しているのが生活習慣、特に、食事、運動、喫煙です。

日本循環器学会による「虚血性心疾患の一次予防ガイドライン」では、心臓病を予防するための生活習慣の改善方法が示されています。その中から、食事バランスの部分ピックアップしてみました。

食事バランス:エネルギー、蛋白質、脂質、糖質(炭水化物)、ビタミン、ミネラルなどの栄養素を適正量摂取するとともにバランスよく摂取する

- ・糖質エネルギー比 50%以上
- ・脂質エネルギー比 20～30%
- ・食物繊維を十分に(成人男性 19g/日以上、成人女性 17g/日以上)
- ・食塩摂取量(成人男性 9.0g/日未満、成人女性 7.5g/日未満、高血圧予防のためには 6g/日以下推奨)

日本循環器学会「虚血性心疾患の一次予防ガイドライン」(2012年改訂版)を参考に作成

その中で、食事バランスの「食物繊維を十分に摂る」ために、野菜を1日350g食べることを、日本心臓財団では推奨しています。

しかし、心臓病予防には、食物繊維量だけでなく、糖質や脂質のバランス、塩分量にも改善のポイントがあります。そこで、ガイドラインに合わせた食事のポイントと、季節の野菜を使ったレシピをご紹介します。また、最近は旬がわかりにくくなっている野菜を季節の行事とともに紹介していきますので、食卓の彩りの見直しになれば幸いです。

今回は、食物繊維についてです。食物繊維が多く含まれる食物は、野菜はもちろん、果物、穀物、海藻も忘れてはなりません。厚生労働省の推奨量は、野菜1日350g(緑黄色野菜がそのうち120g)、果物200gとされています。栄養素量を満たすだけでなく、第6の栄養素としての食物繊維が豊富に取れることによる健康効果が期待されています。

(Hearty Action 管理栄養士・濱田 真里)

春野菜のサラダ～海苔ドレッシングかけ～(2人分)

【材 料】

たけのこ	100g
菜の花	100g
春キャベツ	50g
海苔ドレッシング	50g
・サラダ油	大さじ1
・酢	大さじ1
・塩胡椒	少々
・焼き海苔	1/2枚

【作り方】

- ①たけのこ、菜の花、春キャベツはそれぞれ茹でて、食べやすい大きさに切る。
 - ②海苔ドレッシングを作る。サラダ油、酢、塩胡椒を混ぜ、小さくちぎった焼き海苔を加える。
 - ③茹でた野菜に海苔ドレッシングをかけながらいただく。
- *野菜は、旬のものなら他の野菜でも構いません。
*海苔は、海苔佃煮にすると、磯の香りがアップします。お好みでどうぞ。



季節の主な行事

(二十四節季)と

旬の野菜

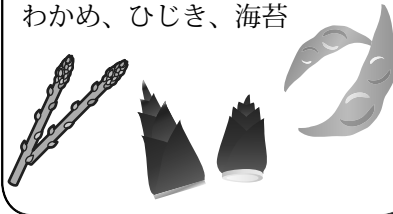
4月 花見(穀雨・4月20日頃)

5月 端午の節句(立花・5月5日頃)

6月 入梅(夏至・6月21日頃)

旬の野菜

アスパラ、グリンピース、ごぼう、そらまめ、たけのこ、にら、のびる、ふき、さやえんどう、セロリ、新玉ねぎ、春キャベツ、わかめ、ひじき、海苔



*春が旬の野菜の代表は、山菜類。

山菜の新芽には、解毒や脂肪分解を促進するアルカロイドやポリフェノールが多く含まれます。冬に貯め込んだ脂肪を分解し、夏の暑さをしのげるように準備するため、えぐみの強いものが多いと言われています。

第39回日本心臓財団「佐藤賞」

日本心臓財団佐藤賞は、当財団の故佐藤喜一郎初代会長を記念して設けられました。近年循環器領域で顕著な業績をあげ、今後もこの分野で中心的な役割を果たすことが期待される50歳未満の研究者1名に贈られるものです。

第39回受賞は『細胞シート工学による立体組織構築法の確立と心筋再生への応用』の研究テーマにより東京女子医科大学の清水達也氏に決定しました。3月22日、第78回日本循環器学会学術集会(会長:永井良三 自治医科大学学長)にて受賞式が開催され、当財団矢崎義雄理事長より賞牌と副賞100万円が贈呈されます。



受賞者: 清水 達也

東京女子医科大学 先端生命医科学研究所教授

第38回日本心臓財団 草野賞

日本心臓財団草野賞は、当財団の故草野義一初代理事長を記念して設けられました。この一年間に脳血管障害に関する学術雑誌に掲載された40歳未満の研究者の論文に対し贈られるものです。第38回受賞は『動脈硬化危険因子を有する患者における血清 Interleukin-6 濃度と新規の脳血管障害発症の関連』という論文のテーマで大阪大学の三輪佳織氏に決定いたしました。第39回日本脳卒中学会総会(会長:吉峰俊樹 大阪大学脳神経外科教授)会期中に受賞式が行われ、賞牌ならびに50万円が贈呈されます。



受賞者: 三輪 佳織

大阪大学大学院医学系研究科神経内科学 医員

第2回「心臓賞」

「心臓」賞は、日本心臓財団・日本循環器学会発行和文投稿誌「心臓」において、1年間に掲載された論文の中から、編集委員、Advisory Board、日本循環器学会理事の全49名の先生方による推薦、審査のもとに、最終的に編集委員会にて最優秀賞1論文と優秀賞2論文を選ぶものです。今回、第2回「心臓」賞は、2013年に掲載された118論文の中から、下記の3論文が栄えある受賞論文となりました。



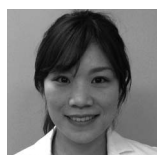
最優秀賞 (副賞 10万円)

藤原 雄太 (神戸市立医療センター中央市民病院糖尿病内分泌内科)

アミオダロン服用中の甲状腺機能に関する検討

The effects of amiodarone on the thyroid function

(心臓 2013; 45: 1101-1109)



優秀賞 (副賞 5万円)

寺口 郁子 (和歌山県立医科大学循環器内科)

腫瘍崩壊症候群による高カリウム血症により心肺停止にいたった多発性内分泌腫瘍2A関連巨大褐色細胞腫の1例

A rare case of rapid spontaneous tumor lysis syndrome-induced lethal hyperkalemia in bilateral giant pheochromocytomas associated with multiple endocrine neoplasia type 2A

(心臓 2013; 45: 163-168)



優秀賞 (副賞 5万円)

蜜岡 幹夫 (仙台厚生病院心臓血管センター)

急性大動脈解離における予後予測因子としての腎機能

Renal dysfunction on admission as a predictor for in-hospital mortality of patients with acute aortic dissection

(心臓 2013; 45: 663-669)

ご支援ありがとうございます

日本心臓財団の事業の維持と発展にご協力いただいております法人賛助会員のご芳名を感謝の意を表して掲載させていただきます。なお、病院賛助会員・教室賛助会員の皆様のご芳名は次号に掲載させていただきます。

株式会社 アクセル
旭化成ゾールメディカル株式会社
旭化成ファーマ株式会社
アステラス製薬株式会社
株式会社 アレクソン
株式会社 池野商店
有限会社池野ビルメンテナンス
エーザイ株式会社
MSD株式会社
大塚製薬株式会社
小野薬品工業株式会社
オムロンヘルスケア株式会社
救心製薬株式会社
杏林製薬株式会社
株式会社 協和企画
興和創薬株式会社
サノフィ株式会社
有限会社サンエイ・モールド
株式会社ジェイ・エム・エス
塩野義製薬株式会社
ジヨソソ・イント・ジヨソソ株式会社

株式会社 スズケン
株式会社世界貿易センタービルディング
ゼリア新薬工業株式会社
セント・ジュード・メディカル株式会社
第一三共株式会社
大正製薬株式会社
大日本住友製薬株式会社
太平洋セメント株式会社
大鵬薬品工業株式会社
武田薬品工業株式会社
田辺三菱製薬株式会社
中外製薬株式会社
帝人ファーマ株式会社
テルモ株式会社
トーアエイヨー株式会社
東京海上日動火災保険株式会社
東芝メディカルシステムズ株式会社
株式会社 東横イン
株式会社 トライテック
鳥居薬品株式会社
株式会社 日清製粉グループ本社

日本軽金属株式会社
日本光電工業株式会社
日本新薬株式会社
日本製紙株式会社
日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社
日本メドトロニック株式会社
ノバルティスファーマ株式会社
バイエル薬品株式会社
ファイザー株式会社
フクダ電子株式会社
ブルーミング中西株式会社
ボストン・サイエンティフィックジャパン株式会社
株式会社 三井住友銀行
三菱アルミニウム株式会社
三菱地所株式会社
株式会社 三菱総合研究所
三菱電線工業株式会社
三菱マテリアル株式会社
株式会社 メガロス
持田製薬株式会社

当財団へご寄附をいただいた方

次の方々からご寄附を賜りました。ここに厚く感謝申し上げます、ご芳名を掲載させていただきました。

(2013年12月～2014年2月)

小澤 良男様 加藤 正明様 鎌田 信夫様
小松 晴茂様 齋藤アヤ子様 阪口 勝子様
鈴木 啓太様 高橋 儀幸様 太刀川良子様
谷口真理子様 前田 拓也様 増田 美佳様
松井 義明・美恵子様 森本 典子様
山谷 正治様 若松百合子様
匿名ご希望6名様

■小さなハートをつなぐ基金

井岡 敏夫様 岩下 菊子様 河合 富夫様
隈本 納実様 立松加容子様
匿名ご希望3名様

当財団をご支援くださる方

賛助会員として本年度にご支援をいただいた方々のご芳名を掲載させていただきました。

(2013年12月～2014年2月)

猪又 孝元様 鍵山俊太郎様 北村惣一郎様
佐地 勉様 豊嶋 英明様 林 直彦様
藤山 武史様 松木あかね様 室原 豊明様

寄附のお願い

日本心臓財団は、循環器病を克服するため、研究助成、予防啓発、さらに循環器病に関する皆様からのメール相談などを行ってまいりました。今後もこのような活動を継続させていただけますよう、皆様からのご支援をお待ち申し上げます。何卒ご協力賜りますようお願い申し上げます。

当財団は公益財団法人の認定を受けておりますので、当財団へのご寄附は税法上の優遇措置が適用され、所得税(個人)、法人税(法人)の控除が受けられます。

また、税額控除に係る証明を取得しておりますので、個人の方からのご寄附については所得控除と税額控除のいずれか一方を選択いただくことができます。

■三井住友銀行 丸ノ内支店

普通 0801474

■三菱東京UFJ銀行 丸の内支店

普通 4025878

■ゆうちょ銀行

一般振替口座 00140-3-173597

(ゆうちょ銀行〇一九(ゼロイチキユウ)店
当座 0173597)

口座名:公益財団法人 日本心臓財団
ザイ)ニホンシンソウザイダン